

特別支援教育 発達障害の特性理解

自閉症スペクトラム障害
(自閉性障害、アスペルガー障害、
高機能自閉症)

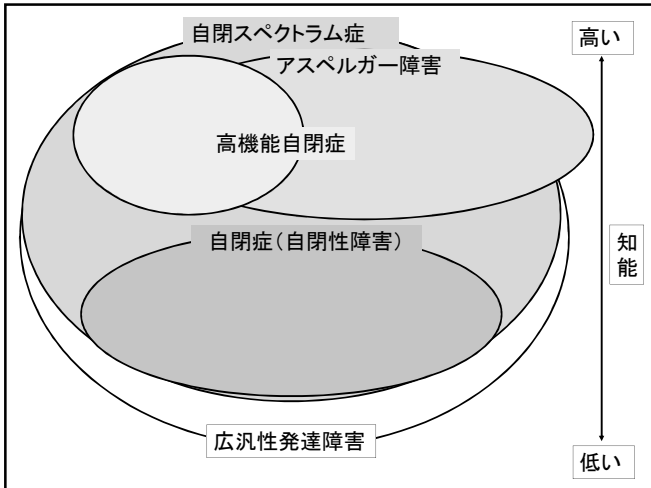
自閉症の定義

- 自閉症とは、3歳位までに現れ、①他人との社会的関係の形成の困難さ、②言葉の発達の遅れ、③興味や関心が狭く特定のものにこだわることを特徴とする行動の障害であり、中枢神経系に何らかの要因による機能不全があると推定される。
- このうち、知的発達の遅れを伴わないものを「高機能自閉症」また、知的発達の遅れを伴わず、かつ、自閉症の特徴のうち言葉の発達の遅れを伴わないものを「アスペルガー症候群」という

平成15年3月の「今後の特別支援教育の在り方について(最終報告)」参考資料より

自閉症の種類

- 自閉症 Autism
- 自閉性障害 Autistic disorder
- アスペルガー障害(症候群) Asperger's disorder (syndrome)
- 高機能自閉症 (High-functioning disorder)
- 広汎性発達障害 (Pervasive developmental disorder、PDD)
- 自閉スペクトラム症(自閉症スペクトラム障害、Autism spectrum disorder、ASD)



最新の自閉スペクトラム症の定義

- 複数の状況で社会的コミュニケーション及び対人相互反応における問題があり、友人関係や想像上の遊びなどを行うことが難しい
- 行動や興味、活動の限定された反復的行動、こだわりが見られ、感覚刺激に対しても過敏さ、もしくは鈍感さを示す
- 症状は発達早期に見られるが、社会的な環境等によって症状が完全に出ない場合もある
- 知的障害や他の障害では説明ができない

アメリカ精神医学会DSM-5 精神疾患の分類と診断の手引 より

ASDの疫学的な問題

- 2000年以降の調査では、ASDの出現率は1.16 % (Baird et al., Lancet, 2006), 1.57 % (Baron-Cohen et al., BJP, 2009)と軒並み1%超え
- 最新のイギリスのコホート研究では、6歳から8歳までの子ども(平均7.2±0.2歳)のASD出現率は1.7%。ADHDは1.4% (アメリカのデータでは6.3%), 両者の併存が0.3% (Russell et al., JADD, 2013)。

ASDの医学的, 生物学的基盤

性差……3:1から4:1で男性が多い

アスペルガー障害は女性の比率が高いという報告もあるが、それでも圧倒的に男性が多い

知的障害……軽度から重度の割合が75%

非言語性IQが70以下50%未満

→併存率はまちまち

遺伝的要因 (Bailey et al., 1995)

一卵性双生児の一致率 69% (他の研究では80~96%)

二卵性双生児の一致率 0% (他の研究では2~10%)

兄弟の一致率に近い)

ASDの発達的特徴

• 語用論(言葉の意味、意図を読み取る)の問題

「お風呂見てきて？」→見てくるだけ？

• 共同注意、社会的参照の遅れや問題

共同注意や社会的参照は少なくとも1歳半までには確実に見られるが、ASDのある子どもはこの時点ではっきり見られない

• 指差しの遅れ

「命令的指差し」ならできるが「宣言的指差し」が難しい(定型発達児であれば、遅くとも一歳前後にはすでに見られる)

ASDの発達的特徴

• 一人遊びを好む

あまり集団に入ろうとはせず一人遊びをすることが多い

• 想像的な遊びの遅れ

ごっこ遊びの中で、ふり遊びや想像遊びがなかなか出てこない

• 人に対する関心をあまり示さない

人を見ない、名前を覚えない、呼ばれても振り向かない、極端な愛着(お母さんのみ強い愛着行動を見せるなど)

ASDの認知的特徴

- 細部への焦点化された注意
全体よりも細かい部分に注意が向く
- 心の理論の発達の遅れ
他者に信念がある(自分とは違う考えを持っている)
ということに気づきづらい
- 視覚的同時処理能力の強さ
視覚的な認知能力に優れている

※ASDはこれら全ての特徴を持っているとは限らない
(どれ一つとして当てはまらない人もいないと思うが)

ASDのある子どもの基本的な対応

- 曖昧な言葉は混乱するので、具体的な言葉を使う
例) ×「ちゃんとしなさい」→○「喋るのを止めてください」
×「下みてごらん」 →○「鉛筆拾ってね」
- パニックを起こしている時は、落ち着くまで時間を置く
→落ち着いたら「我慢できたね」とほめる(パニックに
対して叱らない)
- 興味・関心の狭い子供に対しては、得意な領域を関
連させて楽しめる指導を行う
例) 電車好き→地理の勉強(駅名と地名を関連させる)
算数に電車を使う(距離の計算など)

ASDのある子どもの基本的な対応

- 感覚過敏がある場合、特性に応じた環境整備をする
例) 視覚過敏 → 教室の掲示物を少なくする
パーテーションで区切る
聴覚過敏 → イヤーマフやノイズキャンセリング
ヘッドフォン、耳栓などを使う
音の少ない場所で活動する
- 言葉をかけるときは、目の前で、短く、ゆっくり、分りや
すく、具体的に話しかける
- 指示が通りづらい場合、視覚的手がかりを用いる
例) 絵カードを用いた予定表、絵カードによるコミュニ
ケーション、イライラ度を図示する など

構造化による工夫

- 構造化とは、主に視覚からの刺激を整理して、「本人がやりやすい状態」を作ることASDの視覚優位特性を利用している→**視覚的構造化**
 - ASDの人は、抽象的なものよりも具体的な提示の方が理解が容易
 - 順序や因果関係がわからない(指示)
 - 組織化が下手(組織化)
 - どれが重要で何に注意を向けるかわからない(明瞭化)
 - 刺激量を統制することで注意力を高める
- ※具体的な提示でわかりやすく、また余計な刺激を統制するので不安の軽減をはかり、作業効率を上げる

ASD,ADHDに共通する配慮

- 共感的理解の態度をもち、児童生徒の長所や良さを見つけ、それを大切にされた対応を図る。
- 社会生活を営む上で必要な様々な技能を高める(ソーシャルスキルトレーニング)。それらは、ゲーム、競技、ロールプレイ等による方法が有効である。
- 短い言葉で個別的な指示をする(受け入れやすい情報提示、具体的で理解しやすい情報提示)。
- いじめ、不登校などに対応する。
- 本人自らが障害の行動特性を理解し、その中で課題とその可能な解決法、目標を持つなど対処方法を編み出すよう支援する。

ASD,ADHDに共通する配慮

- 校内の支援体制を整える。
- 周囲の子どもへの理解と配慮を推進する。
- 通級指導教室での自信と意欲の回復を図る(スモールステップでの指導等による)。
- 通級指導教室担当者は、在籍学級担任への児童生徒の実態や学習・行動の状況等に関する情報提供や助言をする。
- 医療機関と連携する。
- 個別の指導計画、個別の教育支援計画を活用する。
